

令和7年度 シラバス

授業科目		設計製図Ⅱ		単位／時間	217 h
開講学科等		建築インテリア学科		担当教員	松尾 優子
授業の目的・テーマ		設計製図Ⅰに引き続き、より実践的な建築製図、建築設計を学ぶ。／公共性が高い施設の設計を通し都市と建築・環境と建築・町並みと建築などを考えプランニングする力を養う。			
授業の到達目標		設定敷地から場所性をよみとり、動線計画を考慮し計画する力をつける。／機能性・空間性・利便性を総合的に考え形にする。			
授 業 の 計 画	1	ふれあいセンター 課題説明	26	特殊建築物の設計（博物館・美術館）製図	
	2	調査 現地調査・既存センター調査	27	特殊建築物の設計（博物館・美術館）製図	
	3	同上	28	特殊建築物の設計（博物館・美術館）製図	
	4	レポート提出	29	特殊建築物の設計（博物館・美術館）製図	
	5	エスキス プーニング・動線計画	30	特殊建築物の設計（博物館・美術館）製図	
	6	同上	31	特殊建築物の設計（博物館・美術館）製図 提出	
	7	エスキスチェック 1	32		
	8	エスキスチェック 2	33		
	9	エスキスチェック 3	34		
	10	図面制作	35		
	11	同上	36		
	12	同上	37		
	13	プレゼンテーション準備	38		
	14	プレゼンテーション	39		
	15	特殊建築物の設計（博物館・美術館）課題説明 企画	40		
	16	特殊建築物の設計（博物館・美術館）企画	41		
	17	特殊建築物の設計（博物館・美術館）企画	42		
	18	特殊建築物の設計（博物館・美術館）企画 発表	43		
	19	特殊建築物の設計（博物館・美術館）エスキス	44		
	20	特殊建築物の設計（博物館・美術館）エスキスチェック 1	45		
	21	特殊建築物の設計（博物館・美術館）エスキスチェック 2	46		
	22	特殊建築物の設計（博物館・美術館）エスキスチェック 3	47		
	23	特殊建築物の設計（博物館・美術館）製図	48		
	24	特殊建築物の設計（博物館・美術館）製図	49		
	25	特殊建築物の設計（博物館・美術館）製図	50		
授業の方法		実習			
テキスト/参考文献					
評価の方法や基準		レポート・提出図面・作品・プレゼンを総合的に評価する。			
実務経験のある教員による授業科目の場合、 右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する					○
実務経験		建築設計事務所にて設計士として勤務。			
実務経験の活かし方		建築設計の実務で養ってきた知識や技術、ノウハウを学生に還元していく。			
履修上の注意事項		特になし			

令和7年度 シラバス

授業科目		C A D実習Ⅱ		単位／時間	93 h
開講学科等		建築インテリア学科		担当教員	石元 優
授業の目的・テーマ		C A D実習Ⅰに引き続いて、2 D C A Dの基礎から応用までを習得、速度・正確さなど技術的向上を目指す。／C A D実習Ⅰに引き続き、より実践的なCADソフトでの作図技術を修得する。／C A Dソフトを使って木造住宅・R C住宅の設計・製図を学ぶ。			
授業の到達目標		2 D C A Dの特性の理解と、二次元製図の操作方法、操作手順の技術的向上。／C A Dソフト使って一般的な木造住宅の設計・製図（礎伏図から詳細図まで）を習得する。／C A Dソフト使って一般的なR C住宅の設計・製図（一般図から詳細図まで）を習得する。			
授業の計画	1	木造基礎伏図課題（1）	26	R C造矩形図課題（2）	
	2	木造基礎伏図課題（2）	27	R C造矩形図課題（3）	
	3	木造1階床伏図課題（1）	28	R C造詳細図課題（1）	
	4	木造1階床伏図課題（2）	29	R C造詳細図課題（2）	
	5	木造2階床伏図・1階小屋伏図課題（1）	30	R C造詳細図課題（3）	
	6	木造2階床伏図・1階小屋伏図課題（2）	31	R C造詳細図課題（4）	
	7	木造2階小屋伏図課題（1）	32		
	8	木造2階小屋伏図課題（2）	33		
	9	木造軸組図課題（1）	34		
	10	木造軸組図課題（2）	35		
	11	木造詳細図課題（1）	36		
	12	木造詳細図課題（2）	37		
	13	木造詳細図課題（3）	38		
	14	木造詳細図課題（4）夏休課題説明（R C住宅の設計）	39		
	15	R C造配置図課題	40		
	16	R C造平面図課題（1）	41		
	17	R C造平面図課題（2）	42		
	18	R C造平面図課題（3）	43		
	19	R C造断面図課題（1）	44		
	20	R C造断面図課題（2）	45		
	21	R C造断面図課題（3）	46		
	22	R C造立面図課題（1）	47		
	23	R C造立面図課題（2）	48		
	24	R C造立面図課題（3）	49		
	25	R C造矩形図課題（1）	50		
授業の方法		実習			
テキスト/参考文献		教員によるマニュアル配布			
評価の方法や基準		基本的なコンピューター用語の理解、ハードの取扱い、ソフトの基本的操作の習得具合を評価基準とする。C A Dを使っての基本的な設計製図の習得具合を評価基準とする。また、課題提出状況、出席状況を加味し総合評価を判断する。			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する					○
実務経験		ハウスメーカーにて設計担当として勤務。			
実務経験の活かし方		業界で養った実務技術を、学生に還元していく。また、業界での業務フローや担当の役割割りなど、専門科目以外の部分でも知識を与えていく。			
履修上の注意事項		保存用の記憶媒体は、磁気によりデータを消失してしまう恐れがあるため、磁気には近づけないように。			

令和7年度 シラバス

授業科目	建築計画	単位／時間	31 h
開講学科等	建築インテリア学科	担当教員	山中 貴記
授業の目的・テーマ	建築の変遷とそれらを取りまく環境を理解する。建築の基本を自然環境、社会環境から学んでいく。／建築の原点である住宅や集合住宅を中心的素材とし建築計画の理念や方法を論ずる。／建築のプランを作成する上で、計画学上の基本原則を学ぶ。		
授業の到達目標	建築計画に係わる専門的知識、及び問題解決への応用力を習得する。／建築計画の中で社会の要求とそれを解決する手法を習得する。／二級建築士試験における該当科目での合格レベルを目標とする。		
授業の計画	1	計画基礎 計画の基本原則	26 構法・材料 建築材料の特性
	2	計画基礎 建築のライフスタイル	27 確認テスト
	3	計画基礎 敷地と条件	28 人間工学 安全・健康
	4	計画基礎 配置計画	29 人間工学 効率・快適
	5	計画基礎 平面計画	30 人間工学 人間行動
	6	計画基礎 規模計画	31 学年末テスト
	7	計画基礎 構造計画	32
	8	小テスト	33
	9	計画基礎 設備計画	34
	10	計画基礎 防火・避難計画	35
	11	計画基礎 高齢者・身心障害者のための計画	36
	12	計画基礎 建築生産・住宅生産	37
	13	計画基礎 景観と建築	38
	14	計画基礎 地球環境との共生	39
	15	確認テスト	40
	16	各部の計画（寸法・面積）寸法・面積の決定要素	41
	17	各部の計画（寸法・面積）人体寸法と動作寸法	42
	18	各部の計画（寸法・面積）動作空間と行動空間	43
	19	各部の計画（寸法・面積）高齢者・身心障害者のための寸法	44
	20	小テスト	45
	21	構法・材料 構造材料の適応スパン	46
	22	構法・材料 主体構造	47
	23	構法・材料 屋根	48
	24	構法・材料 開口部	49
	25	構法・材料 床・壁・天井	50
授業の方法	講義		
テキスト/参考文献	建築計画（学芸出版社）、プリント、スライド等 2級建築士対策問題集、インテリア設計士テキスト		
評価の方法や基準	小テスト・学期末テスト・確認テスト・レポート等にて評価。		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する			○
実務経験	インテリア事務所にて図面作成、パース制作等。自営にてパース制作業務。		
実務経験の活かし方	実務の現場で必要とされている内容に即した作図法やパース表現を効率的かつ直接的に指導。		
履修上の注意事項	特になし		

令和 7 年度 シラバス

授業科目	建築設備	単位／時間	31 h
開講学科等	建築インテリア学科	担当教員	小原 浩
授業の目的・テーマ	建築物と一体化してその建物の機能、効用を十分に生かすための工作を施したものが建築設備である。／衛生・空調設備を中心に設計及び計画上、必要な基礎知識について実践を踏まえて講義する。		
授業の到達目標	主に「空気調和設備」「給排水衛生設備」「電気設備」などの計画に関する基本事項を身につける。／二級建築士試験における該当科目での合格レベルの知識を身につけることを目標とする。／インテリア設計士試験における該当科目での合格レベルの知識を身につけることを目標とする。		
授業の計画	1	建築設備とは	26 電気設備－昇降設備
	2	建築設備の種類と技術	27 確認テスト
	3	空気調和設備－概要	28 照明計画 1
	4	空気調和設備－空調負荷	29 照明計画 2
	5	空気調和設備－計画と方式	30 照明計画 3
	6	空気調和設備－機器と材料	31 学年末テスト
	7	空気調和設備－換気設備	32
	8	空気調和設備－排煙設備	33
	9	給排水衛生設備－概要	34
	10	給排水衛生設備－給水・給湯設備	35
	11	給排水衛生設備－給水・給湯設備	36
	12	給排水衛生設備－給水・給湯設備	37
	13	確認テスト	38
	14	給排水衛生設備－排水・通気設備	39
	15	給排水衛生設備－排水・通気設備	40
	16	給排水衛生設備－衛生機器	41
	17	給排水衛生設備－消火設備	42
	18	給排水衛生設備－し尿浄化槽設備	43
	19	給排水衛生設備－小テスト	44
	20	電気設備－概要	45
	21	電気設備－電力設備 1	46
	22	電気設備－電力設備 2	47
	23	電気設備－照明設備 1	48
	24	電気設備－照明設備 2	49
	25	電気設備－通信情報設備	50
授業の方法	演習		
テキスト/参考文献	初めての建築設備（学芸出版社）プリント、スライド等 2 級建築士対策問題集、インテリア設計士テキスト		
評価の方法や基準	小テスト・確認テスト・学年末テスト等にて評価。		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する			○
実務経験	自営業30年 建築デザイン及び店舗デザイン施工業務		
実務経験の活かし方	より実践的な仕事の進め方などの授業を行う。		
履修上の注意事項	特になし		

令和7年度 シラバス

授業科目	構造力学	単位／時間	31 h
開講学科等	建築インテリア学科	担当教員	濱口 一平
授業の目的・テーマ	建築物の安全性を考える上で重要な部材に生ずる力を解析する能力を養う。		
授業の到達目標	各種の解法や断面性能を理解する。／二級建築士試験における該当科目での合格レベルの知識を身につけることを目標とする。／インテリア設計士試験における該当科目での合格レベルの知識を身につけることを目標とする。		
授業の計画	1	構造力学の概要 1	26 部材の設計 3
	2	構造力学の概要 2	27 確認テスト
	3	力 1	28 梁の変形
	4	力 2	29 不静定構造物
	5	構造物－構造物・荷重	30 弾塑性体の基本
	6	構造物－反力	31 学年末テスト
	7	静定梁 1	32
	8	静定梁 2	33
	9	静定梁 3	34
	10	静定ラーメン 1	35
	11	静定ラーメン 2	36
	12	静定ラーメン 3	37
	13	確認テスト	38
	14	静定トラス 1	39
	15	静定トラス 2	40
	16	静定トラス 3	41
	17	断面の力学的特性 1	42
	18	断面の力学的特性 2	43
	19	断面の力学的特性 3	44
	20	小テスト	45
	21	ひずみ度と応力度 1	46
	22	ひずみ度と応力度 2	47
	23	ひずみ度と応力度 3	48
	24	部材の設計 1	49
	25	部材の設計 2	50
授業の方法	講義		
テキスト/参考文献	初めての建築構造力学（学芸出版社）プリント、スライド等 2級建築士対策問題集、インテリア設計士テキスト		
評価の方法や基準	小テスト・確認テスト・学年末テスト・レポート等にて評価。		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する			○
実務経験	建築設計・監理業務20年間（住宅・公共施設・福祉施設等）		
実務経験の活かし方	一級建築士の意匠系建築設計実務者としての経験や知識を元に、実際に建築設計をおこなう際に必要不可欠となる構造力学の基礎を習得させる。		
履修上の注意事項	特になし		

令和7年度 シラバス

授業科目	一般構造	単位／時間	62 h
開講学科等	建築インテリア学科	担当教員	小原 浩
授業の目的・テーマ	より実践的な建築構造を学ぶ。又、引き続いて形態や歴史を学習する。		
授業の到達目標	鉄筋コンクリート造、鉄骨造を中心に建築物の骨組みや仕上げの構成を理解する。／二級建築士試験における該当科目での合格レベルの知識を身につけることを目標とする。／インテリア設計士試験における該当科目での合格レベルの知識を身につけることを目標とする。		
授業の計画	1	鉄筋コンクリート構造－概要	26 鉄骨構造－床組・階段・耐火被覆
	2	鉄筋コンクリート構造－原理と特徴	27 確認テスト
	3	鉄筋コンクリート構造－構造形式	28 その他の構造－鉄骨鉄筋コンクリート構造
	4	鉄筋コンクリート構造－鉄筋とコンクリート	29 その他の構造－補強コンクリートブロック構造
	5	鉄筋コンクリート構造－背筋の基本	30 その他の構造－プレストレスコンクリート構造
	6	鉄筋コンクリート構造－基礎	31 学年末テスト
	7	鉄筋コンクリート構造－構造計画	32
	8	鉄筋コンクリート構造－柱・梁	33
	9	鉄筋コンクリート構造－床スラブ	34
	10	鉄筋コンクリート構造－階段	35
	11	鉄筋コンクリート構造－壁	36
	12	現場見学	37
	13	確認テスト	38
	14	鉄骨構造－概要	39
	15	鉄骨構造－構造形式	40
	16	鉄骨構造－鋼材	41
	17	鉄骨構造－構造用鋼材の強度	42
	18	小テスト	43
	19	鉄骨構造－接合1	44
	20	鉄骨構造－接合2	45
	21	鉄骨構造－構造計画	46
	22	鉄骨構造－骨組の部材	47
	23	鉄骨構造－梁・柱	48
	24	鉄骨構造－筋かい	49
	25	鉄骨構造－柱脚・基礎	50
授業の方法	演習		
テキスト/参考文献	初めての建築一般構造（学芸出版社）プリント、スライド等 2級建築士対策問題集、インテリア設計士テキスト		
評価の方法や基準	小テスト・確認テスト・学年末テスト・レポート等にて評価。		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する			○
実務経験	自営業30年 建築デザイン及び店舗デザイン施工業務		
実務経験の活かし方	より実践的な仕事の進め方などの授業を行う。		
履修上の注意事項	特になし		

令和 7 年度 シラバス

授業科目	建築施工	単位／時間	31 h
開講学科等	建築インテリア学科	担当教員	武政 正樹
授業の目的・テーマ	現場施工、内外装工事实施の結果の確認等に関し、各建築物の企画等を行う上で必要とする専門知識を修得する。		
授業の到達目標	安全な建築物を施工する為の基本的な考えを身につける。／二級建築士試験における該当科目での合格レベルの知識を身につけることを目標とする。／インテリア設計士試験における該当科目での合格レベルの知識を身につけることを目標とする。／レベルメーターを用いて地形の標高差を測定する方法を習得する。		
授業 の 計 画	1	現場の立上げ	26 鉄骨構造
	2	建築施工の特徴と建設業	27 確認テスト
	3	建築施工に携わる人々	28 平板測量実習
	4	工程管理	29 各種工事の基本
	5	安全管理	30 各種工事の基本
	6	まとめ－小テスト	31 学年末テスト
	7	木造在来軸組工法による住宅	32
	8	木造在来軸組工法による住宅	33
	9	木造在来軸組工法による住宅	34
	10	木造在来軸組工法による住宅	35
	11	確認テスト	36
	12	水準測量実習	37
	13	枠組壁構法による住宅	38
	14	枠組壁構法による住宅	39
	15	枠組壁構法による住宅	40
	16	枠組壁構法による住宅	41
	17	まとめ－小テスト	42
	18	鉄筋コンクリート造	43
	19	鉄筋コンクリート造	44
	20	鉄筋コンクリート造	45
	21	鉄筋コンクリート造	46
	22	まとめ－小テスト	47
	23	鉄骨構造－概要	48
	24	鉄骨構造	49
	25	鉄骨構造	50
授業の方法	講義		
テキスト/参考文献	初めての建築施工（学芸出版社）プリント、スライド等 2 級建築士対策問題集、インテリア設計士テキスト		
評価の方法や基準	小テスト・確認テスト・学年末テスト・レポート等にて評価。		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する			○
実務経験	建築設計事務所で住宅から小規模施設（事務所・診療所・工場等）の意匠・構造設計を担当。その後、土木コンサルタントを経て、開発コンサルタント会社に勤務し主に宅地開発業務に従事。現在は設計事務所を設立し、宅地開発を中心に、土木・建築設計を手掛ける。		
実務経験の活かし方	身近な住宅建築を中心に、構造（木造・鉄骨造・RC造）特性に合わせた用途を取り上げ、それぞれの施工上の特徴を解説する。 施工は取っつきにくい科目だと言われることが多いが、実例写真や動画をふんだんに利用し、理解の手助けになるような解説を行うとともに、施工分野に興味を持ってもらえることを心掛けた内容とする。		
履修上の注意事項	特になし		

令和 7 年度 シラバス

授業科目	建築法規	単位／時間	31 h
開講学科等	建築インテリア学科	担当教員	葛岡 龍樹
授業の目的・テーマ	法規、法令・基準、規格について、その理念と運用について理解する。		
授業の到達目標	建築基準法や建築関連法規を理解する。／各条文の考え方や規定の内容について学ぶ。／二級建築士試験における該当科目での合格レベルを目標とする。／インテリア設計士試験における該当科目での合格レベルを目標とする。		
授業の計画	1	建築法規の概要	26 確認申請と手続き－工事の着工と完了
	2	建築法規の概要－建築法規の歴史	27 確認テスト
	3	建築法規の概要－建築法規の役割	28 確認申請と手続き－違法建築物に対する措置
	4	建築法規の概要－建築法規の体系	29 まとめ 1
	5	小テスト	30 まとめ 2
	6	用語の定義－建築物に関する用語	31 学年末テスト
	7	用語の定義－防火に関する用語	32
	8	用語の定義－建築手続きに関する用語	33
	9	用語の定義－面積と高さ	34
	10	小テスト	35
	11	建築物の健全性（単体規定）一般構造	36
	12	建築物の健全性－構造強度	37
	13	確認テスト	38
	14	建築物の健全性－防火と内装制限	39
	15	建築物の健全性－避難	40
	16	建築物の健全性－建築設備	41
	17	小テスト	42
	18	都市と街区の健全性（集団規定）－道路と敷地	43
	19	都市と街区の健全性－用途地域	44
	20	都市と街区の健全性－容積率と建ぺい率	45
	21	都市と街区の健全性－高さ制限	46
	22	都市と街区の健全性－防火地域	47
	23	都市と街区の健全性－地区と街区の計画	48
	24	小テスト	49
	25	確認申請と手続き－確認と許可	50
授業の方法	講義		
テキスト/参考文献	はじめての建築法規（学芸出版社）、プリント、スライド等 建築関係法令集（建築法令研究会）		
評価の方法や基準	小テスト・確認テスト・学年末テスト・レポート等にて評価。		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する			○
実務経験	建築設計事務所に勤務し独立		
実務経験の活かし方	建築設計における建築法規の技術を授業に活かす。		
履修上の注意事項	特になし		

令和 7 年度 シラバス

授業科目	3 D C A D		単位／時間	93 h
開講学科等	建築インテリア学科		担当教員	山中 貴記
授業の目的・テーマ	ベクターワークス 3DCGモデリング機能及びレンダリングソフトを使い、モデルを作成。／CADによる三次元の立体的表現を通して空間の構成及びプレゼンテーション能力を養う。／3次元CADソフトの基本操作を理解し、コンピュータ上で空間シミュレーションを行ったり、立体的に検討できる知識・技術をつける。			
授業の到達目標	基本的機能、操作の理解、魅力的な表現の仕方を身につける。／自分の思想、デザイン理念を明確に伝えるプレゼンテーション能力の向上。			
授 業 の 計 画	1	3 D の概念 幾何学形態	26	建築モデリング (3)
	2	幾何学形態 レンダリング	27	建築モデリング (4)
	3	テクスチャマッピング	28	建築モデリング (5)
	4	オブジェクトライブラリーの使用	29	建築モデリング (6)
	5	便利ツールの利用	30	様々なアプリケーションを使いプレゼン化 (1)
	6	便利ツールの利用	31	様々なアプリケーションを使いプレゼン化 (2)
	7	家具モデリング (1)	32	
	8	家具モデリング (2)	33	
	9	家具モデリング (3)	34	
	10	インテリアモデリング (1)	35	
	11	インテリアモデリング (2)	36	
	12	インテリアモデリング (3)	37	
	13	インテリアモデリング (4)	38	
	14	インテリアモデリング (5)	39	
	15	プレゼンボード作成	40	
	16	フォトショップを使った応用 (レタッチ)	41	
	17	フォトショップを使った応用	42	
	18	住宅モデリング (1)	43	
	19	住宅モデリング (2)	44	
	20	住宅モデリング (3)	45	
	21	住宅モデリング (4)	46	
	22	住宅モデリング (5)	47	
	23	住宅モデリング (6)	48	
	24	建築モデリング (1)	49	
	25	建築モデリング (2)	50	
授業の方法	実習			
テキスト/参考文献				
評価の方法や基準	基本的なコンピューター用語の理解、ハードの取扱い、ソフトの基本的操作の習得具合を評価基準とする。また、課題提出状況、出席状況を加味し総合評価を判断する。			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する				○
実務経験	インテリア事務所にて図面作成、パース制作等。自営にてパース制作業務。			
実務経験の活かし方	実務の現場で必要とされている内容に即した作図法やパース表現を効率的かつ直接的に指導。			
履修上の注意事項	コピー防止の徹底			

令和7年度 シラバス

授業科目	ビジュアルデザイン	単位／時間	62 h
開講学科等	建築インテリア学科	担当教員	桑名 史
授業の目的・テーマ	プレゼンボード制作に必要な、人に伝わりやすいデザイン構成力と、それを的確に表現する為の制作技術を学習する。		
授業の到達目標	illustratorとPhotoshopを使用し、見やすいプレゼンボードを制作できるようになる。		
授業の計画	1	1年次の作品をまとめる（ポートフォリオ制作）	26 卒業制作におけるDTP活用の対応
	2	全体構成～ラフ～制作～ファイリングまで	27 卒業制作におけるDTP活用の対応
	3	全体構成～ラフ～制作～ファイリングまで	28 卒業制作におけるDTP活用の対応
	4	全体構成～ラフ～制作～ファイリングまで	29 卒業制作におけるDTP活用の対応
	5	全体構成～ラフ～制作～ファイリングまで	30 卒業制作におけるDTP活用の対応
	6	プロの作品のレイアウト模倣練習	31
	7	学校施設案内制作（写真加工・文字組み練習）	32
	8	学校施設案内制作（写真加工・文字組み練習）	33
	9	住宅ポスター制作（写真加工・文字組み練習）	34
	10	住宅ポスター制作（写真加工・文字組み練習）	35
	11	住宅ポスター制作（写真加工・文字組み練習）	36
	12	ふろしきや風呂敷デザインコンペ2015作品制作	37
	13	ふろしきや風呂敷デザインコンペ2015作品制作	38
	14	ふろしきや風呂敷デザインコンペ2015作品制作	39
	15	ふろしきや風呂敷デザインコンペ2015作品制作	40
	16	学校玄関ホール提案ボード制作	41
	17	玄関ホールの活用方法（展示方法等）を考え	42
	18	提案するという設定でプレゼンボードを制作する	43
	19	学校玄関ホール提案ボード制作	44
	20	高知市展ポスター制作	45
	21	高知市展ポスター制作	46
	22	高知市展ポスター制作	47
	23	2年次の作品をまとめる（ポートフォリオ制作）	48
	24	2年次の作品をまとめる（ポートフォリオ制作）	49
	25	2年次の作品をまとめる（ポートフォリオ制作）	50
授業の方法	実習		
テキスト/参考文献	教員による資料配布		
評価の方法や基準	課題提出、授業態度		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する			○
実務経験	有限会社イーストクリエイツにてグラフィックデザイナーとして7年間勤務定期的にロゴ・広告制作などを行っている		
実務経験の活かし方	実際の現場で多く使われる方法などを伝え、より実践的な制作技術を教える		
履修上の注意事項	特になし		

令和7年度 シラバス

授業科目	インテリアデザイン	単位／時間	6 2 h
開講学科等	建築インテリア学科	担当教員	菅野 乃美
授業の目的・テーマ	空間を演出する・シーンを造るなど、あかりの重要性を学ぶことで、住宅はもちろん店舗や事務所といった日常生活に役立つ照明設計の基礎知識を身につける。		
授業の到達目標	照明の基礎知識の修得。 ライティングデザインプレゼンボード制作。		
授業の計画	1	ライティングデザインとは／施工事例	26 プレゼンボード制作…仕上げ
	2	照明の基礎：光と目	27 プレゼンボード制作…仕上げ
	3	照明の基礎：照明と色	28 プレゼンボード制作…仕上げ
	4	照明の基礎：照明方法	29 プレゼンボード制作…仕上げ
	5	照明の基礎：照明と用語、単位／小テスト	30 プレゼンボード制作…仕上げ
	6	照明器具：照明器具の分類	31 プレゼンボード制作…仕上げ
	7	照明器具：記号	32
	8	照明器具：住宅用照明器具とポイント	33
	9	照明器具：施設用照明器具とポイント／小テスト	34
	10	照明方法：照明と快適性	35
	11	照明方法：照明器具の配光	36
	12	照明方法：照明の方法／小テスト	37
	13	照明に必要な計算	38
	14	照明に必要な計算	39
	15	照明に必要な計算／小テスト	40
	16	照明制御：照明制御の目的	41
	17	照明制御：照明制御の種類／小テスト	42
	18	総合テスト	43
	19	あかり空間の体感	44
	20	あかり空間の体感	45
	21	あかり空間の体感	46
	22	プレゼンボード制作…家族構成・コンセプト	47
	23	プレゼンボード制作…配光・図記号	48
	24	プレゼンボード制作…照明器具選定	49
	25	プレゼンボード制作…パース	50
授業の方法	演習		
テキスト/参考文献	暮らしのシーン別 照明設計の教科書		
評価の方法や基準	1. 課題提出＝40％ 2. 総括テスト＝40％ 3. 小テスト＝20％		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する			○
実務経験	宮地電機株式会社 広報・デザイン課課長として勤務。広報活動と同時に、照明士・窓装飾プランナーの資格を活かし、住宅や店舗の照明設計、インテリアプラン、イルミネーションデザイン、ディスプレイデザイン、イベント立案など担当する。		
実務経験の活かし方	実際の、施主や営業担当者とのやりとりを踏まえ、お客様のニーズをどう反映すべきか、また健康や快適な空間づくりへどう誘うべきかを伝えながら、照明設計の考え方を指導してゆく。		
履修上の注意事項			

令和 7 年度 シラバス

授業科目	施工実務Ⅱ		単位／時間	31 h
開講学科等	建築インテリア学科		担当教員	武政 正樹
授業の目的・テーマ	建築生産に関係する事項を全般的に取り上げる。 建築生産を取り巻く制度、建築生産現場の実態、施工計画・施工管理の手法、各工事の実施方法の概要について授業していく。			
授業の到達目標	建築に対しての生産の観点から思考できるようになるための資質を育む。 様々な知識を集積させ、建築の生産現場で必要となる感性や判断力の基盤となるものを身に付けさせる。 各種工事の標準的な実施方法を習得させる。			
授業の計画	1	建築施工業務の内容	26	鉄骨工事の流れ
	2	建築生産の一連の流れ	27	鉄骨工事の流れ
	3	敷地・地盤の調査と測量	28	鉄筋コンクリート工事の流れ
	4	測量機による実習	29	鉄筋コンクリート工事の流れ
	5	仮設工事の内容	30	鉄筋コンクリート工事の流れ
	6	土工事と地業・基礎工事	31	建築施工業務のまとめ
	7	主体工事（木工事）	32	
	8	主体工事（鉄骨工事）	33	
	9	主体工事（鉄筋コンクリート工事）	34	
	10	主体工事（その他コンクリート工事）	35	
	11	仕上工事（防水工事）	36	
	12	仕上工事（屋根工事）	37	
	13	仕上工事（造作工事）	38	
	14	仕上工事（左官工事）	39	
	15	仕上工事（タイル・石工事）	40	
	16	仕上工事（金属工事）	41	
	17	仕上工事（建具・硝子工事）	42	
	18	仕上工事（塗装工事）	43	
	19	仕上工事（内装工事）	44	
	20	仕上工事（内装工事）	45	
	21	仕様と積算	46	
	22	施工方式と建築業務	47	
	23	木造建築工事の流れ	48	
	24	木造建築工事の流れ	49	
	25	木造建築工事の流れ	50	
授業の方法	講義			
テキスト/参考文献	参考資料プリント等 建築施工入門 実教出版			
評価の方法や基準	授業態度、試験結果			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する				○
実務経験	建築設計事務所で住宅から小規模施設（事務所・診療所・工場等）の意匠・構造設計を担当。その後、土木コンサルタントを経て、開発コンサルタント会社に勤務し主に宅地開発業務に従事。現在は設計事務所を設立し、宅地開発を中心に、土木・建築設計を手掛ける。			
実務経験の活かし方	身近な住宅建築を中心に、構造（木造・鉄骨造・RC造）特性に合わせた用途を取り上げ、それぞれの施工上の特徴を解説する。 施工は取っつきにくい科目だと言われることが多いが、実例写真や動画をふんだんに利用し、理解の手助けになるような解説を行うとともに、施工分野に興味を持ってもらえることを心掛けた内容とする。			
履修上の注意事項	特になし			

令和7年度 シラバス

授業科目	プレゼンテーション		単位／時間	62 h
開講学科等	建築インテリア学科		担当教員	葛岡 龍樹
授業の目的・テーマ	インテリア計画からプレゼンテーションまでの流れを含めたトータルなモノづくりを理解し問題意識を持って実践的なインテリアプランを創り上げ演出していく。店舗の設計や住空間のプランなどの計画、インテリア設計士検定試験合格を目指す。			
授業の到達目標	ただ単に物を選び、配置したり飾ったりのテクニックだけではなく、住み手の暮らしを見直しよりよい生活空間を提案できるようになること。インテリア計画の基本図面を理解し、描けるようになること。インテリア設計士検定試験の計画・図面の理解。			
授業の計画	1	インテリア設計士検定概要説明	26	卒業制作におけるインテリア計画の対応
	2	インテリア設計士検定回転いすスケッチ	27	卒業制作におけるインテリア計画の対応
	3	家具図説明・造り付け家具について	28	卒業制作におけるインテリア計画の対応
	4	インテリア設計士検定インテリアエレメント計画	29	卒業制作におけるインテリア計画の対応
	5	インテリア設計士検定平面計画について	30	卒業制作におけるインテリア計画の対応
	6	課題発表・平面計画プランニング	31	卒業制作におけるインテリア計画の対応
	7	平面計画図①・コンセプト	32	
	8	平面計画図②・造り付け家具プランニング	33	
	9	平面計画図③・エレメント表	34	
	10	インテリア設計士検定展開図①	35	
	11	インテリア設計士検定展開図②	36	
	12	インテリア設計士検定室内パース①	37	
	13	インテリア設計士検定室内パース②	38	
	14	住まいのインテリアコーディネートコンテスト 概要説明	39	
	15	住まい課題部門選択・プランニング	40	
	16	住まいエスキス・プランニング	41	
	17	住まいエスキス・プランプレゼンテーション	42	
	18	住まい作図・プレゼンボード作成1	43	
	19	住まい作図・プレゼンボード作成2	44	
	20	住まい作図・プレゼンボード作成3	45	
	21	住まい作図・プレゼンボード作成4	46	
	22	住まい作図・プレゼンボード作成5	47	
	23	卒業制作におけるインテリア計画の対応	48	
	24	卒業制作におけるインテリア計画の対応	49	
	25	卒業制作におけるインテリア計画の対応	50	
授業の方法	実習形式			
テキスト/参考文献	プリント資料、インテリア設計士テキスト			
評価の方法や基準	出席率、授業態度、実習課題			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する				○
実務経験	建築設計事務所に勤務し独立			
実務経験の活かし方	建築設計におけるクライアントへのプレゼンテーションの技術を授業に活かす。（模型製作やプレゼンテーション書類の作成等）			
履修上の注意事項	特に無し			

令和7年度 シラバス

授業科目	リノベーション演習		単位／時間	62h
開講学科等	建築インテリア学科		担当教員	山下 智徳
授業の目的・テーマ	・住居の内外における物理的環境を学び、その中で暮らす人たちが肉体的にも精神的にも健全で、快適に満足して住めるような住居を計画できる知識を学ぶ。			
	・福祉住環境やエコロジー住宅を学習し、今後の住居のあり方を学ぶ。			
授業の到達目標	・リフォーム課題を通して、素材や家具などインテリアを構成する要素を学び、			
	トータルコーディネートを身につける。			
	・快適で安全な住宅計画ができるようになる。			
授業の計画	1	(課題A) 図面の読み解き方	26	模型制作
	2	エスキス ゾーニング・動線計画	27	模型制作
	3	同上	28	プレゼンテーション準備
	4	エスキスチェック1	29	プレゼンテーション準備
	5	エスキスチェック2	30	プレゼンテーション準備
	6	エスキスチェック3	31	プレゼンテーション
	7	図面制作	32	
	8	図面制作	33	
	9	図面制作	34	
	10	図面制作	35	
	11	プレゼンテーション準備	36	
	12	プレゼンテーション準備	37	
	13	プレゼンテーション	38	
	14	(課題B) 図面の読み解き方	39	
	15	エスキス ゾーニング・動線計画	40	
	16	同上	41	
	17	エスキスチェック1	42	
	18	エスキスチェック2	43	
	19	エスキスチェック3	44	
	20	図面制作	45	
	21	図面制作	46	
	22	図面制作	47	
	23	図面制作	48	
	24	模型制作	49	
	25	模型制作	50	
授業の方法		演習		
テキスト/参考文献		各建築の設計図書		
評価の方法や基準		出席率、授業態度、実習課題		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する				○
実務経験		建築設計事務所に勤務し独立		
実務経験の活かし方		建築設計におけるクライアントへのプレゼンテーションの技術を授業に活かす。(模型製作やプレゼンテーション書類の作成等)		
履修上の注意事項		特になし		

令和 7 年度 シラバス

授業科目	デザイン実習Ⅱ	単位／時間	62 h
開講学科等	建築インテリア学科	担当教員	川島 卓
授業の目的・テーマ	建築模型製作を通して ①空間の構成力、②2Dから3Dにする空間的思考力、③模型製作の技術力を習得する。		
授業の到達目標	建築図面が読める。製作目的に応じた材料が選べる、道具を使いこなせる。早く模型がつかれる。美しい模型がつかれる。		
授業 の 計 画	1 図面の読み方／模型の作り方	26	同上
	2 A住宅プレゼンテーション模型製作 (S=1/100)	27	自主設計課題模型製作
	3 同上	28	同上
	4 同上	29	同上
	5 同上	30	同上
	6 同上	31	同上
	7 同上	32	
	8 B住宅軸組模型製作(S=1/100)	33	
	9 同上	34	
	10 同上	35	
	11 同上	36	
	12 同上	37	
	13 同上	38	
	14 C住宅プレゼンテーション模型製作(S=1/100)	39	
	15 同上	40	
	16 同上	41	
	17 同上	42	
	18 同上	43	
	19 同上	44	
	20 D住宅軸組模型製作(S=1/100)	45	
	21 同上	46	
	22 同上	47	
	23 同上	48	
	24 同上	49	
	25 同上	50	
授業の方法	実習		
テキスト/参考文献	各建築の設計図書		
評価の方法や基準	建築模型の基礎知識の理解度・模型の完成度から総合的評価で判断する。		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する			○
実務経験	建築設計事務所に勤務し独立		
実務経験の活かし方	建築設計におけるクライアントへのプレゼンテーションの技術を授業に活かす。(模型製作やプレゼンテーション書類の作成等)		
履修上の注意事項	実務レベルで通用する模型製作をめざす。		

令和7年度 シラバス

授業科目	色彩演習	単位／時間	62 h
開講学科等	建築インテリア学科	担当教員	大倉 美知子
授業の目的・テーマ	専門性を高め、CUD（カラーユニバーサルデザイン）を習得させる。		
授業の到達目標	文部科学省後援「AFT色彩検定」2級レベルの色彩知識を習得させる。／文部科学省後援「AFT色彩検定」UC級レベルの色彩知識を習得させる。／専門学校生としての自覚を持ち、卒業後の社会人イメージを目標に、夢をかなえる努力をする人間を育成する。		
授業の計画	1	ガイダンス・1年次の復習	26 CUDプレゼン
	2	マンセル表色系	27 色彩検定UC級模試 1
	3	光と色	28 色彩検定UC級模試 2 ※色彩検定UC級冬期受験
	4	視覚	29
	5	JIS・慣用色名	30
	6	色彩調和	31
	7	ビジュアル・プロダクト・ファッション	32
	8	インテリア	33
	9	エクステリア環境	34
	10	色彩検定2級 模試 I	35
	11	色彩検定2級 模試 II	36
	12	色彩検定2級 模試 III ※色彩検定2級夏期受験	37
	13	CUDガイダンス	38
	14	表色系復習	39
	15	色覚異常	40
	16	XYZ表色系	41
	17	混同色	42
	18	高齢者の見え方	43
	19	UD	44
	20	CUDの考え方	45
	21	CUDの進め方1	46
	22	CUDの進め方2	47
	23	CUD事例 1	48
	24	CUD事例 2	49
	25	CUD演習	50
授業の方法	演習		
テキスト/参考文献	公式テキスト（色彩検定2級/色彩検定UC級）・過去問題集（2級※1年次購入/UC級前年度）・配色カード（※1年次購入）		
評価の方法や基準	小テスト・模擬試験・授業態度の総合評価		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する			○
実務経験	1999年にカラーオフィスPERSONALを個人開業（四国初）、現在に至る。 高知市のランドマーク「鏡川大橋」の色彩設計をはじめ、企業や個人住宅のインテリアなどの色彩設計。 現在；高知県「屋外広告物審議会」会長、高知市「景観審議会」副会長。		
実務経験の活かし方	色彩検定協会やJ-colorの認定講師としての検定指導と、行政の環境色彩指針やクライアントの要望を適色適所で色彩設計できるよう指導。		
履修上の注意事項	特になし		

令和7年度 シラバス

授業科目		建築研究		単位／時間		62h	
開講学科等		建築インテリア学科		担当教員		石元 優	
授業の目的・テーマ		・ 建築の事例や、建築家について幅広く学ぶ。 ・ 建築空間の手法・具体化するまでのプロセスを学ぶ。 ・ 五感を働かせた建築空間計画ができるようになる。					
授業の到達目標		・ フィールドワークによる自己表現ができるようになる。 ・ 建築家やその作品の魅力を知り、自己の作品に反映させる。 ・ リフォーム計画のプレゼンボードを作成する。					
授業 の 計 画	1	空間フィールドワーク	26	リフォーム計画プレゼン			
	2	空間フィールドワーク	27	公共建築物の設計			
	3	空間フィールドワーク	28	〃			
	4	体感フォトブック作成	29	〃			
	5	体感フォトブック作成	30	〃			
	6	建築家紹介（国外）	31	〃			
	7	建築家紹介（国内）	32				
	8	自分の好きな建築家について調査	33				
	9	自分の好きな建築家について調査	34				
	10	建築家についてレポート作成	35				
	11	レポート発表（他のメンバーに紹介する）	36				
	12	ふくし機器展参加【校外】	37				
	13	建築見学【校外】	38				
	14	空間の捉え方	39				
	15	〃	40				
	16	〃	41				
	17	都市空間から学ぶ手法	42				
	18	〃	43				
	19	建築見学【校外】	44				
	20	リフォーム計画	45				
	21	〃	46				
	22	〃	47				
	23	〃	48				
	24	〃	49				
	25	〃	50				
授業の方法		実習					
テキスト/参考文献		参考資料プリント等					
評価の方法や基準		取り組みの態度、提出物、発表内容					
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する					○		
実務経験		ハウスメーカーにて設計担当として勤務。					
実務経験の活かし方		業界で養った実務技術を、学生に還元していく。また、業界での業務フローや担当の役割りなど、専門科目以外の部分でも知識を与えていく。					
履修上の注意事項		特になし					

令和7年度 シラバス

授業科目	インテリア研究		単位／時間	62 h
開講学科等	建築インテリア学科		担当教員	松尾 優子
授業の目的・テーマ	・家具と人間の関わり方を学習し、デザインと設計において基礎知識を身につける。			
	・製品のデザインの意味を理解し、社会性を持って各自の美意識を高め、設計をしながら個々のデザイン観を完成させていく。			
授業の到達目標	・家具ディテールの理解			
	・デザインに対する取り組み方、考え方、姿勢の確立			
	・主観的、客観的に満足のいく作品の創作			
授業の計画	1	家具三面図	26	店舗設計課題 2
	2	家具のデザインと設計について	27	卒業制作への応用設計
	3	椅子のデザイン	28	卒業制作への応用設計
	4	椅子の構造	29	卒業制作への応用設計
	5	椅子のディテール	30	卒業制作への応用設計
	6	イス・テーブル オリジナルデザイン	31	卒業制作への応用設計
	7	収納家具のデザイン	32	
	8	収納家具の構造	33	
	9	オリジナル家具 エスキース	34	
	10	オリジナル家具 三面図	35	
	11	オリジナル家具 三面図	36	
	12	オリジナル家具 三面図	37	
	13	オリジナル家具 三面図	38	
	14	店舗設計について	39	
	15	店舗設計課題 1	40	
	16	店舗設計課題 1	41	
	17	店舗設計課題 1	42	
	18	店舗設計課題 1	43	
	19	店舗設計課題 1	44	
	20	店舗設計課題 1	45	
	21	店舗設計課題 2	46	
	22	店舗設計課題 2	47	
	23	店舗設計課題 2	48	
	24	店舗設計課題 2	49	
	25	店舗設計課題 2	50	
授業の方法		実習		
テキスト/参考文献				
評価の方法や基準		授業態度、課題、出席状況		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する				○
実務経験		建築設計事務所にて設計士として勤務。		
実務経験の活かし方		建築設計の実務で養ってきた知識や技術、ノウハウを学生に還元していく。		
履修上の注意事項		特になし		

令和 7 年度 シラバス

授業科目	卒業制作	単位／時間	62 h
開講学科等	建築インテリア学科	担当教員	松尾 優子
授業の目的・テーマ	・ 2 年間で培った技術と知識の集大成。研究テーマ、調査、設計、模型制作、プレゼンテーションまで一貫して行なう。		
授業の到達目標	・ プレゼンテーションパネルの制作（B 1 x 2） ・ プレゼンテーション模型の制作 ・ プレゼンテーション 3 D パースの制作 ・ プレゼンテーション（発表会） ・ 高知県建築デザインコンペ出品・入賞		
授業 の 計 画	1 手順開設・取り組み方法について	26	〃
	2 作品事例①	27	模型制作
	3 作品事例②	28	〃
	4 作品事例③	29	〃
	5 作品事例③	30	全作品提出（パネル＋模型）
	6 実測演習①	31	プレゼンテーション
	7 実測演習②	32	
	8 実測演習③	33	
	9 実測演習③	34	
	10 課題発表	35	
	11 既存建築調査	36	
	12 計画敷地調査①	37	
	13 計画敷地調査②	38	
	14 調査書・企画書提出	39	
	15 企画書プレゼン	40	
	16 エスキス	41	
	17 〃	42	
	18 〃	43	
	19 〃	44	
	20 〃	45	
	21 プラン確定	46	
	22 パネル制作	47	
	23 〃	48	
	24 〃	49	
	25 〃	50	
授業の方法	演習		
テキスト/参考文献	建築空間計画、空間学辞典		
評価の方法や基準	企画力、構成力、表現力にて総合評価する。 発表会におけるプレゼンテーションにて評価する。		
実務経験のある教員による授業科目の場合、 右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する			○
実務経験	建築設計事務所にて設計士として勤務。		
実務経験の活かし方	建築設計の実務で養ってきた知識や技術、ノウハウを学生に還元していく。		
履修上の注意事項	特に無し		